

「アジアの貧困国で移民大国で米中恒久属国化していくことに精神的に耐えられそうにありませんか？」

平成 30 年 11 月 7 日

●金太郎さんからの質問

安倍政権・自民党の新自由主義による際限のない奈落、どこまでも破棄されつくして没落、アジアの貧困国で移民大国で米中恒久属国化していくことに精神的に耐えられそうにありません。どうしたら先生達のように戦えるのか、笑えるのか、日本人はこの程度だったと諦めが必要なのでしょうか。

●西田昌司の答え

安倍政権に失望されていることについては大変に申し訳なく思いますが、与党が駄目なだけでなく野党に頼っても正しい方向には進まないのが悲しいところです。

安倍政権が移民に前のめりとの批判がされていますが、入管法改正について慎重あるいは反対の意見が一番多かったのが自民党の部会ですし、そのために3年後に制度を見直すことになりました。その一方で野党はどうかと申しますと、彼らも「これは移民政策なのでは？」と反対のポーズは示すものの、正面を切って移民反対を主張する先生は一人もいないという状況です。

また、景気対策についても、財政出動する以外に手はないと主張する私のような議員は自民党内でも少数派ですし、野党の先生にそのような主張をぶつけたところで「またばらまくのか！」といった類の反対の声が返ってくるだけで、金太郎さんだけでなく私も今の状況に非常に閉塞感があります。しかし、ここで絶望していたら前に進みません。

ではどうすればよいかというと、現実を見据えた議論を徹底的にするよりほかありません。自民党の部会ではかなり踏み込んだ議論をしていますが、政権の揚げ足取りのような議論に終始せずにもっと真剣な議論を野党の先生にはしていただきたいです。国会においてまともな議論がされないがためにデフレからの脱却もできませんし、外国人労働者の問題についても本質的議論がなされないのです。外国人労働者の必要性が叫ばれる根本の原因は日本人の給料がどんどんと下がっているからですし、その場しのぎで外国人を招くのではなく財政出動等をして根本の原因を取り除くべきなのです。

外国人労働者やデフレの問題は全て根底でつながっています。この30年間にやり続けたグローバリズム路線・新自由主義的政策が根本的な原因なのですし、その結果、一部の大企業にのみ大量の内部留保が溜るという格差社会を招いているのですが、そのような根本に触れない昨今の議論に接して私も非常に歯がゆい思いです。

新自由主義的政策の失敗は日本のみならず世界中でやってしまって問題となっていますが、この問題についてもっとしっかりとした議論をして国民にも伝えていかなければなりません。気付いた国民が増えることによって事態は少しずつ改善していきますし、そうやって前に進んでいくよりほかありません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>